

国際研究集会「近世、近代における日中文化交流史を読む」

2014年9月10日水曜日 15時00分-18時00分、京都大学人文科学研究所本館3階・セミナー室4にて、国際研究集会「近世、近代における日中文化交流史を読む」（公開）が開催されます。

日時：9月10日水曜日 15時00分-18時00分

場所：人文科学研究所本館3階・セミナー室4

報告者：

徐興慶（台湾大学教授・京都大学人文研外国人研究員）

演題：

近世、近代における日中文化交流史を読む
—朱舜水、独立の研究から近代人物比較研究の敷衍へ—

使用言語：日本語

近世、近代における日中文化交流史を読む

—朱舜水、独立の研究から近代人物比較研究の敷衍へ—

本報告は東アジアの視座に入れ、近世から近代の黎明期への転換期を対象とし、日本側に所蔵する夥しい数量に上る未公開文献の蒐集や実地でのフィールドワークなどを踏まえた経験を語る。さらにオリジナル史料の解明や考察に直面する問題点を提起し、関心の論証の展開や実証的・文献学的方法論を考える。

とりわけ、近世、近代における日中の思想・文化交流史の研究という大きな流れの中に朱舜水（1600-82）、独立（戴曼公、1596-1672）の書誌学的かつ文献実証的な基礎研究から「全集補遺」や「全集」を編集するに至るまでの経緯を報告する。

また、東アジアの交渉史に関わる実証的な考察や近代の日中知識人におけるモダニティの問題へと関心から、既刊の拙書『東アジアの覚醒——近代日中知識人の自他認識——』（研文出版、2014）の位置および研究史上、どのような意義を有するかを試論する。

参考文献：

- 1、徐興慶「東アジアの視野から見た朱舜水研究」、『日本漢文学研究』第2号（東京：二松学舎大学 21 世紀 COE プログラム）、2007 年 3 月、357-396 頁。
- 2、徐興慶「日中文化交流の伝播と影響——徳川初期の独立禅師を中心に」、『比較日本学教育研究センター研究年報』第7号（東京：お茶の水女子大学、2011 年 3 月、167-174 頁。
- 3、徐興慶『東アジアの覚醒——近代日中知識人の自他認識』（東京：研文出版、2014 年 7 月）。